

麦作情報 No. 2

令和3年1月19日
西松浦農業改良普及センター

1. 気象概況

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
12月	4	6.9	4.6	11.8	8.1	2.5	-0.9	9.3	2.0	18.8	19.3
	5	6.6	6.3	11.6	10.6	2.0	2.0	8.3	7.0	19.4	13.8
	6	6.2	5.7	11.1	11.3	1.6	1.2	10.0	32.5	23.2	19.6
1月	1	5.8	4.6	10.4	8.9	1.4	1.2	10.0	1.5	18.0	24.2
	2	5.5	1.2	10.0	4.2	1.3	-1.3	11.3	5.0	16.1	3.7
	3	5.4	2.2	9.7	5.0	1.2	0.5	13.4	6.0	14.5	7.6

- 平均気温は、11月4半旬から1月3半旬まで平年並み〜4℃程度低く推移した。
- 降水量は、12月6半旬に30mm以上のまとまった降雨があったものの、12月全体で見ると平年比64%と少なかった。また、1月も平年比36%と少雨傾向で推移している。
- 日照時間は、12月下旬は寡照傾向で推移し、1月に入り一時的に多照となったが、1月2半旬から再び寡照傾向となっている。

2. 生育概況

- 令和3年産麦の播種盛期は、11月上中旬〜11月下旬となった。
- 本年は、11月19日以前に播種された圃場では、播種後の気温がやや高く土壌が湿潤状態であったため、出芽は良好で葉齢の展開が早くなっている。11月19日以降に播種された圃場では、低温少雨傾向で推移したため出芽に時間を要し、圃場内で出芽のばらつきがみられている。
- 特に、播種深度が浅い圃場では、乾燥により出芽のばらつき程度が大きい。
- 12月下旬からの断続的な降雨により、長期滞水した圃場や排水対策が不十分な圃場では、湿害による下葉の黄化がみられている。

《麦類の生育状況（1月18日時点）》

- ① 11月15日頃に播種された圃場では、現在本葉5葉目が展開中（4葉期）
- ② 11月20日頃に播種された圃場では、現在本葉4葉目が展開中（3葉期）
- ③ 11月下旬頃に播種された圃場では、現在本葉2葉目が展開中（1葉期）

3. 今後の管理

幼穂形成始期（麦 5.5L～6.0L 頃）

1) 肥培管理

- ・播種時期により管理が異なるため、下記を参照にする。
※地力がある圃場（堆肥連用田など、令和2年産麦で倒伏した圃場等）では、麦の生育量および葉色から判断して施用量を減じるなど調整を行う。

①11月15日頃播種

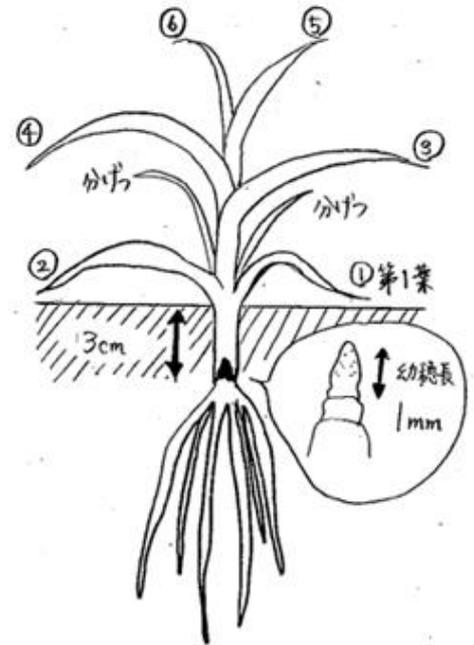
→まもなく幼穂形成期を迎える。雑草の発生がみられる圃場では、早めに雑草防除を実施する。

②11月20日頃播種

→追肥の時期を迎えている。追肥時期を逸さないよう注意する。
※大豆あとの圃場については、麦の生育を見て施肥量を調節する。

③11月下旬播種

→まもなく2葉期を迎える。2月上旬をめどに追肥を行う。



2) 排水対策

- ・麦類の発根力は、最高分げつ期～節間伸長期（概ね7～8葉期頃）が最も高いとされている。根の活力維持のためにも、排水対策は重要な作業である。
- ・2月以降に降水量が多くなる場合があるため、それまでに額縁明渠や水尻へつなく溝の整備を行う。
- ・溝（畦間）をまくら地までとおし、排水力を高める。
- ・暗渠排水が整備されている圃場では、コルゲート管の栓が確実に開いているか確認を行う。

排水溝の整備の実施により、麦の根の活力維持に繋げる！！



3) 麦踏み、土入れ

麦踏みの効果：①耐寒性の増加②根の伸長促進③早立ち防止による凍霜害回避など

- ・必ず圃場が乾燥した状態（畝間が白乾している状態）で、麦踏み（3葉期以降から）や土入れ（5葉期以降から）を実施する。
- ・特に、早播きにより生育が進みすぎている圃場では、幼穂凍死を回避するためにも、麦踏み作業を10日間～2週間の間隔で多く実施する。
- ・土壌水分が高い状態で麦踏みを行うと、土がしまり湿害による根腐みを起こし、生育阻害につながる。今後降雨があった場合は、土を手で握り、湿った状態であれば、無理な麦踏みは避ける。

○莖立ち期以降は、茎折れや穂の裂傷につながり、穂数減となるため、麦踏みは行わない。

土入れの効果：①防寒②倒伏防止③無効分げつの抑制④雑草防除⑤表面排水など

- 土入れ作業は、本葉5～6葉期から圃場の条件をみながら計画的に実施する。
分げつ発生始期に、土入れの量が多いと分げつ抑制につながるため、生育初期（生育量が少ない）は土入れの量を少なく、生育量が多い場合は土入れの量はやや多めにする。
※生育が遅れている圃場や砕土が十分でない圃場では、過度の土入れは控える。

4) 雑草防除

- 水稲刈り取り後雑草が繁茂していた圃場、耕起前の防除が不十分であった圃場では、スズメノテッポウ、カズノコグサ、タデ類、トゲミノキツネノボタンなどの発生が散見される。
- 土入れによる雑草防除を実施するとともに、こまめに圃場の雑草発生状況を把握し、除草剤の処理時期を逸しないよう対策を徹底する。
- 除草剤効果を保つため、雨前を避けて散布する。（天気予報を確認してください）
- カラスノエンドウは収穫時に混入する危険性が高いため、毎年発生している圃場や、すでに発生がみられる圃場では、アクチノール乳剤による防除を徹底する。
- 「ハーモニー75DF水和剤」の使用時期は「播種後～節間伸長前まで」なので、使用の際は麦の生育状況に注意する。カズノコグサの防除は播種直後処理剤と「ハーモニー75DF水和剤」（カズノコグサが1～3葉期までに）との体系処理で行う。

＜カズノコグサとスズメノテッポウの識別法＞

- 「根の色」で簡単に識別できる。
『カズノコグサ』の根は、『スズメノテッポウ』に比べるとやや「白色」。

	種子の形	根の色
カズノコグサ	ハート型 	白色
スズメノテッポウ	粒 	赤褐色



★除草剤散布後は、以下のことに注意する★

- ①「麦踏み」は、除草剤散布後に薬剤の影響で葉が黄色くなっている場合、麦へのダメージが大きいため、散布後1週間は控える。同様の理由で、麦踏み直後の除草剤の散布も控える。
- ②「土入れ」を、除草剤散布後すぐ行くと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので散布後1週間は土入れを控える。（特にステージの進んだ雑草の場合は十分に間隔をあける）

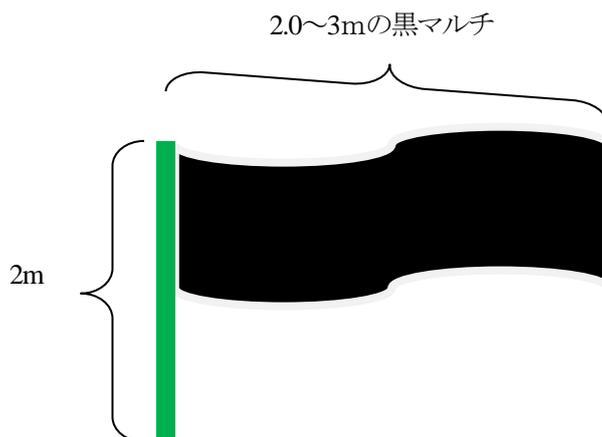
○播種後除草剤が散布できていない圃場や、雑草の発生がみられる圃場では、除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。

農薬名	効果のある雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数	使用上の注意事項
ハーモニー75DF水和剤	イネ科雑草 ・双メテッポウ ・加ノグサ 広葉雑草 ・ヤムグウ ・アサ ・ハバ ・トゲミノキ ツネノボタン	5～10g/10a	100L/10a	播種後～節間伸長前 ※カズノコグサに対しては、 麦1葉期～節間伸長前	1回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布された圃場では使用できません。 ・薬害が生じやすいので周辺作物への飛散に注意。 ・使用器具の洗浄を入念にし、他作物との併用はしない。 ・双メカビエ、カズノコグサには効果が弱い（抑制するが枯死しない）
アクチノール乳剤	広葉雑草 ・ヤムグウ ・カズノコグサ ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml/10a	70～100L/10a	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・広葉雑草多発田に使用し、ヤムグウ、カズノコグサに効果が高い。 ・湿度に左右されず使用できる。 ・散布後、20日程度で枯死。 ・接触剤なので、必ず雑草の茎葉に散布する。 ・気温が高い日の散布は薬害が生じるので注意が必要。

5) 鳥獣害対策（カモによる食害）

- ・近年、11月播種された麦（用水路や川の横の圃場など）において、カモによる食害が見られる。
- ・カモによる食害は、麦の地際部まで草刈機ではらったようになる。
- ・カモ害の対策としては、「のぼり」や、「テグス」などの方法が効果的であると言われている。
- ・効果的な『のぼり』の設置方法は、2mの支柱に、2.0～3.0mの黒色のマルチをつるした「のぼり」を、10aあたり5本均等に設置する方法である。

※「のぼり」は、マルチの長さや支柱の高さが短かったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。（費用は、「のぼり」1本あたり約450円）



6) 酸性土壌による障害

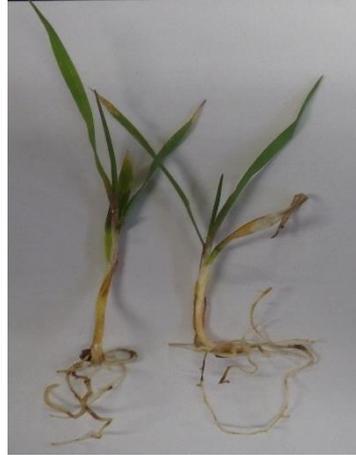
- 1月下旬頃に大麦の下葉の黄化が目立つ場合、酸性障害の可能性がある。

酸性障害の場合、生育期間中に石灰資材を施用しても、麦の生育改善への効果はあまり期待できない。

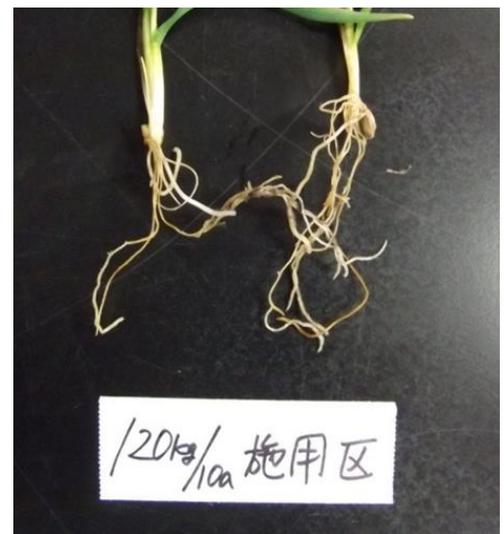
(過去、土壌pH4.8の圃場に消石灰を100kg/10aあたり施用したが、施用効果はなかった)

次年産以降にその圃場で大麦を栽培する際には、土壌pH測定を行い、必ず石灰資材の施用を行う。

※その圃場で、夏作に大豆を栽培する場合も必ず酸度矯正を実施する。



根の活性や量にも大きな違いが見られる



土壌pH 4.8

pH5.2

R3年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (伊万里)

西松浦農業改良普及センター

